水田土地利用再編について
―― 麦作振興をめぐって ――

野見山敏雄・平川一郎（福岡県農業総合試験場）

Toshio NOMIYAMA and Ichirō HIRAKAWA : Development of Land Use of Paddy Field. Problems of Promoting the Wheat Production

１．はじめに

福岡県の麦作は1949年を最高にその後減少を続けていたが，1974年産麦以降麦作振興策を積極的に行い，1983年には麦（４麦）の作付率は県平均29％に回復してきている。地域別作付率をみると筑後地域では45％と高くなっている半面，筑豊地域では５％と低い現状にある。そこで，筑豊地域における水田土地利用を中心に麦作の展開方向の可能性を検討した。

麦作推進については本県農業試験場において1976年度から３ヵ年「水田裏作の作付推進に関する調査研究」が行われ，麦作の問題点について整理しているが，その中でも次のことが重要と考える。

1）土地所有と水利規制の問題。
2）担い手の問題。
3）基盤整備と排水の問題。
4）集団化と地域的な協力の問題。この中には機械化，施設化に適する規模を必要とするという意味での土地集積の問題も含まれている。

以上のことを考慮しながら，嘉穂町大隈地区を選定し調査を行った。

２．調査地区の概要

嘉穂町の水田裏作の現状は飼料作物105ha、麦（小麦が中心，一部大麦）38ha、露地野菜15haであり，麦はその80％が大隈地区で栽培されている。麦の作付規模は全43戸のうち１ha未満の農家が27戸と零細であり，栽培の中心的担い手は兼業農家である。

基盤整備は1967年から各種事業により行われ，1983年度末に289ha、整備を要する水田の35％が完了しており，そのほとんどが大隈地区の水田である。また，現在着工中の県営圃場整備事業が完了すれば，1988年に要整備水田の64％が区画整理されることになる。

第２次構造改善事業により1975年に建設されたライスセンターは現在能力いっぱいの処理を行っており，それを越える分については農協が中核農家に再委託して処理している。このライスセンターは米以外には使用できず，麦についてはすべて個別農家による乾燥調製が行われており，規模拡大の障害のひとつとなっている。

３．調査結果および考察

麦作の問題点を抽出するために大隈地区の大隈と中益の２集落を選定し，麦作農家８戸，非麦作農家４戸の農家調査を行った。

この集落では田植期における水利調整の話し合いが行われておらず，また水稲は早生～中生の品種が栽培されており，しかも田植が適期よりも早くされているため，麦作農家にとって麦収穫～田植の時期は労働力的に，精神的にも厳しいものがある。

調査農家の経営構造（第１表）をみると，麦作農家の水田が215.9ａに対して非麦作農家は154.3ａと62ａの差があるが，麦作農家は借入地が70.6ａあり，借地によって経営規模を拡大し麦作を行っていることがわかる。

機械装備の状況はトラクターや田植機については両者の差異は認められないが，‘コンバインや乾燥機については麦作農家がそれぞれ１台以上所有しているのに対して，非麦作農家はそれらが共有であったり，ライスセンター利用であったりしている。

収益性については平均収量が312kg/10ａと低く，所得は27,868円，所得率48％であった。

以上のことをまとめてみると麦作展開の問題点として次のようなことが考えられる。

１）共同乾燥施設の設置が必要であること。規模拡大を図ろうとしている麦作農家の資本投資の負担を軽減させるとともに，労働ピークを低減させることができ，また非麦作農家の麦作への新規参入が期待できると考える。

２）水利の調整が必要であること。小麦の熟期が筑後地域に比べて５～７日遅く，また田植時期が適期よりも一週間近く前進している現在，麦作の拡大には水利の調整が前提となる。

３）集団化と地域的な協力が必要であること。共同乾燥施設の設置についても，水利調整の問題も個別農家の対応では解決できない問題であり，中核農家を軸として土地の集積を図り麦の団地化を推進しようとするならば，地域農家の協力が必要な条件と考える。また，土地利用型作物である麦の規模の経済性を実現させる上でも集団的生産組織の育成は今後の課題である。

第１表　調査農家の経営構造

		麦作	非麦作
家族数		5.0人	5.0人
農業従事者		2.9	2.5
農業専従者		0.9	0.5
兼業従事者	恒常的	1.9	2.0
	臨時	0.3	0.5
経営耕地面積	水田	215.9a	154.3a
	畑	19.1	12.0
	うち借入地	70.6	4.3
	期間借地	33.9	0

	麦作	非麦作
稲を作った田	171.5 a	103.0 a
内二毛作をした田	170.0	8.5
調査日前１年間稲以外の作物だけ	14.3	30.3
1年間作付しなかった田	30.0	21.3
水田土地利用率(%)	164.8	91.9
麦作付面積(a)	211.8	0

トラクター	1.1	21.4ps	1.0	20.5ps
田植機	1.0	3.5条	1.0	3.5条
コンバイン	1.0	2.3条	2/3	2.8条
乾燥機	1.6	18.2石	1/2	18 石